

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 1丁目)

事業所番号	0670700418		
法人名	社会福祉法人 山形虹の会		
事業所名	グループホームかけはし		
所在地	山形県鶴岡市民田字代家田100-1		
自己評価作成日	平成23年 8月 30日	開設年月日	平成12年 4月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・9人の共同生活について、できるだけ入居者同士で話し合って色々なことを決めるようにしている。
 ・特に家事分担は、仕事の取り合いや押し付け合いにならないよう、職員が入って話し合いをしながら決める。
 ・また、比較的若い、手先の器用な男性入居者がいるので、ホーム以外の他の仕事も可能な限り関わっていただくようにし、働き甲斐のある場を設けるようにしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
 (公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人が運営する老人保健施設等と併設され医療や研修、災害対策等連携体制が整備されている。思いや意向の把握に力を入れ、以前から作成していた個人史に一部センター方式を加えた新たな仕組みづくりを始めている。独自の介護計画書は詳細なサービス計画が盛り込まれ、サービス担当者会議で利用者個々の現状に即した計画の見直しが行われている。病状報告書と受診結果報告書により、事業所と医療機関と家族との情報を共有する工夫がなされている。人格を尊重し利用者を介護される一方の立場に置かず、利用者それぞれの能力や意向に応じた役割活動や利用者の思いを大切に、その人らしい暮らしの支援を重視し、まさに職員と利用者がともに支えあう共同生活の場になっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成23年 9月 29日	評価結果決定日	平成 23年 10月 19日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【グループホームかけはし】の理念を掲げ実践している。事務所内にも掲示し、常に意識するようにしている。	グループホーム独自の理念を作り、見やすい場所に掲示して職員に周知させている。管理者等は毎月のユニット会議や、部門会議の中で職員による理念の実践状況について振り返りを含めて確認している。また、職員は理念を良く理解し日々のケアの中で実践に向け努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園の夏祭りや「歩こう会」等のサークル活動で地域を回り交流を深めている。	事業所は、利用者が地域との繋がりを継続する為の基盤となるよう目的意識を持って住民会に加入すると共に、保育園の行事等様々な行事に積極的に参加している。歩こう会等のサークル活動で地域を回り交流を深める努力もしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	かけはし発表会や運営推進会議等で日々の実践を報告している。 鶴岡市の見守り支援員養成講座の講師と実習受け入れを行い、地域貢献に努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行ない各ユニットの活動及び情報交換を行っている。	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、事業所での生活状況や活動状況、災害対策、外部評価への取組状況等説明が行われている。委員からは事業所の畑の管理に地域の方の協力を仰ぐ等の意見をいただき双方向的な会議になっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護相談委員が定期的に来設され、日常生活の様子を見て頂き、情報交換をしている。また、市の見守り支援員養成講座の実習受け入れを行っている。	介護相談員の定期的な訪問や運営推進会議での状況説明等様々な機会を通して意見の交換がなされている。市の見守り支援員養成講座の実習の受入を行い、市との協力関係の構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>玄関のカギをかけずに自由に出入りできるようになっている。部門会議や全体の学習会で勉強行っている。</p>	<p>法人による学習会や、事業所による勉強会等職員には身体拘束をしないケアの周知を図っている。職員も身体拘束による弊害を十分理解し、利用者の引き起こす行動の原因分析を行い、行動の抑制をせず、よく話を聞き寄り添うことや、役割活動による生きがいの構築に努めることで身体拘束をしないですむケアの実践に取り組んでいる。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員間で声掛け合ったり、小さな事でも話すようにしている。全職員会議等で学習している。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>制度を利用している方がいる為、部門会議で学習している。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>事前訪問でグループホームの説明を行い本人、ご家族の不安や疑問に思った事をお聞きし理解して頂けるようにしている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ケアプラン作成時や担当者会議等で情報交換を行い日常のケアに反映している。</p>	<p>面会時や定期的な面談の機会を利用し家族と良く話し、また、行事等に家族の参加を呼びかける等意見を言いやすい環境づくりに取り組んでいる。入居者による意見交換会も必要に応じ開催し、出された意見を基にサービスの向上に活かす仕組みがある。</p>		
11		<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>担当者会議や部門会議で意見交換を行っている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で、資格手当や休日の確保などの労働環境整備に努めている。部門会議その他の学習会の機会を設けている。			
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	部門会議・全体学習会・外部研修会等に参加している。	事業所内の勉強会や法人による研修会、外部研修に職員の派遣等多岐にわたり学習の機会が確保されている。外部研修には職員の役割やスキルに応じて派遣され、その報告もなされ職員に周知されている。管理者等は、毎月のユニットごとのサービス担当者会議も職員の働きながらスキルアップする機会ととらえ重視している。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鶴岡市介護事業所連絡会・県GH協庄内ブロック等に加盟し、研修・交流・意見交換・交換実習を行っている。	管理者等は職員が同業者と交流する機会をサービス向上の機会として前向きにとらえ、事業者間のネットワークを大切に交換研修の受け入れや派遣を積極的に行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常にコミュニケーションを図り、話しやすい関係、環境づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時、ケアプラン作成時に要望をお聞きしている。面会時等に状況、状態の報告しながら情報交換している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居開始時に面談を行ない要望をお聞きしている。特養申請の希望をお聞きしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や食事準備等職員一緒行っている。 職員一緒に食事を食べる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の生活で気になる事や、受診時変化があった場合は、電話や面会で報告している。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や親類の方々の面会時には、自室でお茶を飲みながら、ゆっくりと過ごして頂いている。 昔から通っている美容院に定期的に行っている方もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握しトラブルがないよう声掛けや 見守りしている。 役割分担をみんなで話し合いで決めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中も可能であれば面会しご本人の状態、家族の状況等お聞きし、今後の対応行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様が思いを伝えやすい環境作りを心がけ、言葉で意思表示できなくても全体の様子から意向を把握するようにしている。	職員は寄り添って話を聞くことを大切に、利用者が思いを伝えやすい環境作りに心がけている。困難な場合は表情やしぐさから思いを汲み取るよう努力している。言葉のやり取りだけではとりこぼしてしまうため、以前から作成していた個人史に一部センター方式を加え新たな思いや意向の把握の仕組みづくりを始めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や日常の生活でご家族、ご本人より聞き取りを行ない生活歴表を作成しこれまでの生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	不穏時の行動アセスメント、水分摂取量、食事量、役割活動等各種の調査を必要時行う事で、生活状況の把握と状況変化に素早く対応するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回担当者会議を行い検討会を行っている。	職員全員によるサービス担当者会議を開催し、1か月、3か月、6か月ごとの評価を行って見直しに繋げている。家族の意見や要望は記録に残し、それを踏まえたうえで、職員等の意見やアイデアを加え、独自の視点を加えた書式に従っての詳細なサービス計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をカルテに記入している。カードックスでの申し送りや、月1回の会議で意見交換し見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	プランターに花や野菜を植え、水かけや手入れを日々の日課として行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時病状報告書を提出している。ご家族にも受診報告 行っている。 ご家族付き添いでの受診希望あればご家族の希望を取りいれている。	かかりつけ医との連携は、病状報告書と受診結果報告書により、事業所と医療機関との情報の共有が実現できている。また、その記録により家族を加えた情報の共有が図られている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時報告し指示を仰いでいる。 受診後服薬の変更、病状に変化があった時は報告している。 隣接老健の看護主任と24時間連絡体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の様子をお聞きしながら、病院との情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階からの特養施設への押し込みを含め、終末期の対応を説明している。重度化も含め退去基準を示し、ホームでできること、将来的な住処などを共に考えるようにしている。	重度化や終末期については、入居時点や状況の変化時等、医療連携体制に関する指針により説明し、混乱がないよう事業所、家族との間で方針の共有ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	部門会議等で学習している。 年に1回応急手当について訓練を行ない、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練等を年に何回か行ない避難の方法を実践している。部門会議等で職員確認している。法人全体で地元住民会との協力を進めている。	法人全体による避難訓練を年2回日中、夜間を想定し行われている。震災を機にマニュアルの見直しが行われ、火災、震災、水害等に対応できる体制の整備に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手に対して傷つけない話し方や思いを否定せず尊重できるよう対応に努めている。	人格を尊重し利用者を介護される一方の立場に置かず、役割や自己決定ができるような言葉かけにより、その人らしい暮らしの支援を重視している。接遇研修などの学習により誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに努力している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	わかりやすい言葉で説明、ご本人の思いや希望が表せるように働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理のないペースで過ごして頂くように対応に努めている。 又希望をお聞きし支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出かける時等は、好きな衣類を選んで頂き、自分らしいおしゃれができるように促している。 買い物に行き好みの洋服等を選んでる。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に野菜刻みや盛り付け等できる事をして頂き準備を行っている。 希望メニューをお聞きしながら献立に入れている。	利用者それぞれの能力や意向による役割により、調理の過程を一緒に行っている。献立作成時にもなるべく利用者の意向を取り入れ、特に日曜日は利用者によるメニューとなっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量必要な方には、表を作り1日の水分量を確保できるようにしている。 咀嚼の困難な方には、食事形態を考えた食事を提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声掛け実践 夜間帯ポリデント洗浄実施している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	アセスメント調査を行ないそれを元に時間誘導対応を行っている。	排泄アセスメントを行い、一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、さりげない誘導や声かけにより、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた取り組みを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い食材を献立に入れたり、センナ茶飲用でのスムーズな排便ができるように援助している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	自分から入浴希望があれば対応を行っている。入浴拒否の方には、タイミングを見ながら対応を行っている。	入浴の時間帯等は特に決まりはない。利用前の生活習慣を把握し、その継続に心がけ個々に応じた入浴の支援を行っている。入浴拒否の方には声かけに工夫し対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	活動した後は、好きな飲みもの等を飲みながら、休息している。 夜間良民できる環境作りをしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルを把握し事故防止に常に努めている。薬変更があった場合は、職員間での申し送りを行っている。 処方箋の確認も行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を確認し好きな事を行えるようにしている。又自宅で自分なりの時間(コーヒーを飲んだり、テレビを見たり)で気分転換の時間の支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望をお聞きしなるべく希望に添えるように計画をたてるようにしている。 ボランティアさんの協力あり。	行事としてのドライブや、サークル活動の歩こう会、買い物や喫茶店等戸外に出かける機会は十分に確保されている。気分転換に外のベンチでくつろげるスペースもある。家族等には、盆、正月等一緒に出かけられるよう呼び掛けも行われている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物等で自分の好きな物を購入している。自分でお金を持ち支払いをしている方もいる。</p>			
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話の希望があった際は、事務所の電話を使用して話しが出来るように対応している。年賀状のやりとりもしている。</p>			
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホーム内の温度、湿度管理を行なっている。季節にあった花を飾り季節感をだしている。</p>	<p>居間は畳と床の間、家具など家庭環境に近い作りで落ち着きがある。共用空間は清掃が行き届き季節感のある花や飾り、思い出の写真等を掲示し、食堂の椅子やソファー、畳等利用者が思いおもいに過ごせるスペースが工夫され、温度湿度の管理がなされ居心地のよい空間となっている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居間や居室で好きな場所で過ごされている。ソファでテレビをみたり一緒に楽しまれている。</p>			
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に自宅で使い慣れた馴染みの家具等を持ち込み 本人が、居心地よくできるだけ自宅での生活を継続できるように配慮している。</p>	<p>それぞれの居室には、それぞれ「ひさし」と表札があり利用者一人ひとりの玄関を思わせる作りとなっている。それぞれの部屋には使い慣れたものや、それぞれの好みの飾りつけ等居心地よく過ごせるよう工夫されている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室入り口に表札を掛け自室がわかるようにしている。風呂場や、トイレには、マークをつけている。</p>			